

地域社会との密接な連携を築こう

～ ふるさと「吉田」に学び、地域と共に成長する吉田っ子 ～

西尾市立吉田小学校 P T A

1 学区と学校概要

本校は西尾市南部の沿岸部に位置し、矢作川河口地域にあつて、古くから干拓による新田開発がさかんに行われてきた。校区には田園地帯が広がり、海岸部は江戸時代から昭和 40 年代にかけて塩田がつくられ、製塩業は旧吉良町の主要な産業の一つになっていた。

校区の大部分が海拔 0 メートル地帯になっているため、地震が発生した際は津波の襲来が予想される。以前は塩田跡地を利用した県や民間の宅地開発が進み、市外からの転入で増加傾向であった本校児童数も最近は減少に転じている。地域のつながりは深く、市民運動会や神社の祭礼など地域で支えられている行事はしっかり受け継がれている。

2 研究のねらい

吉田小学校は「豊かな心、確かな学力、しなやかな体」を教育目標とし、学校と地域が連携し、徳・知・体・食の調和のとれた児童の育成を目指している。P T A 活動においても、本校に協力支援する形で、さまざまな取り組みを行っている。本研究では、次の 2 点をねらいとした。

- 子どもたちが地域の人・もの・ことと関わりながら、地域を見つめ直し、ふるさとに対する愛着の心を育てる。
- 地域の人々との関わりの中で、自分の役割を果たし社会に参画する意義を考えさせる。

3 研究の方法

- (1) 校区が津波浸水区域となっているため、地域の一員としての自覚をもつために津波避難訓練を地域と合同で行う。
- (2) 市民運動会や盆踊り大会などの地域行事や学校行事に P T A が積極的に参加協力し、地域支援・学校支援を進める。
- (3) 体験的な行事を行い、親子で地域の人々や仕事を理解する。

4 研究の実際

(1) 避難訓練

校区のほとんどが津波浸水区域になっている本校は、いろいろな想定に沿って地震に対する避難訓練を行っている。校舎の 3 階に上がる垂直避難、1.5 km ほど離れた近くの高台まで全校児童で移動する避難訓練、そして、毎年 11 月 5 日の津波防災の日には津波到達区域外への避難訓練を行っている。校区の各地区の集合場所から津波が到達しないとされる上横須賀の神社まで 4 km ほどを徒歩で避難する訓練である。地域の人たちと一緒に 5・6 年生が参加している。校外の避難訓練を行う場合は、P T A も一緒に参加したり、交通指導で立哨したりするなど協力・支援を行っている。



近くの高台までの避難訓練

(2) 市民運動会

本校では、運動会を校区のコミュニティと共同で開催している。プログラムにも保育園、老人クラブ、おやじの会、PTA主催の競技があり、計画・準備の段階から幅広い年代がともに協力し合って運営に取り組んでいる。地域が一体となった行事に学校PTAとしても来賓の応対、会場の準備・後片付け、競技の準備・運営など多くの場面で運営に参加し、校区の団結と活性化に貢献している。



運動会でのPTA主催演技

(3) 盆踊り

本校区では、地区のコミュニティの主催で盆踊りが本校グラウンドで毎年実施されている。地域との連携を深めるよい機会になっている。学校PTAは、飲み物の出店やビンゴゲームを行い、盆踊りを盛り上げている。

(4) 寿学級

敬老の日の前後に、祖父母を招待して寿学級を行っている。授業参観では、児童と一緒にお手玉やコマ回しなど昔の遊びをしたり、工作や川柳づくり、水墨画を描いたりしている。また、食育講座を開催し、その後に給食試食会を行っている。毎年、世代を越えたふれ合い活動に心温まる時間が流れている。PTAは、会場案内と給食の準備・片付け、記録写真を担当して、運営を支えている。



寿学級での給食試食会

(5) ハムづくり

子どもたちが地域の人・ものに触れる機会を増やすために、地域の養豚業の方を講師にして親子でハムづくりを行っている。毎年40名くらいの親子が参加して、人気の講座となっている。ハムづくりは2日間の作業が必要で、子どもたちが着け込み液を作ったり、布でくるんだりするのを手伝ったり、ボイルやスモークの作業を行ったりして、この行事を支えている。



親子で楽しんだハムづくり

5 研究の考察

子どもたちが、地域の人・もの・こととふれ合い楽しい体験をする中で、ふるさと「吉田」を愛する心を持つことができたと考えられる。また、校区が沿岸部にあり、全域が津波浸水区域となっている地域の特性上、常に防災意識を持つことはもちろん、地域の一員としての自覚を高め、自分の役割を理解しておくことが大切であると考えている。

6 成果と今後の課題

子どもたちが様々な活動において、地域の人々とかかわりを持つ中で、地域の一員としての自覚を持つきっかけをつくることができた。PTA活動もその一助となることができたと思う。今後も自分の役割を果たし社会に参画する意義を考えさせるために、さらに魅力あるPTA活動を維持・推進していくことが課題である。